

2020年12月期 決算説明

2021年3月12日
市光工業株式会社

目 次

■ 2020年12月期業績概要 (2020年1月～2020年12月)

■ 2021年12月期業績見通し (2021年1月～2021年12月)

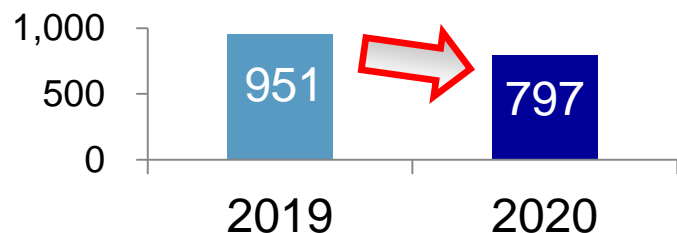
2020年12月期業績概要 (2020年1月～12月)

マーケット生産台数と当社売上高 前年比較

単位：万台

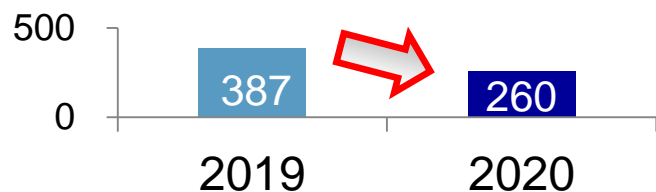
マーケット生産台数 (出展：LMC Automotive)

Japan 前年比 ▲16.2%



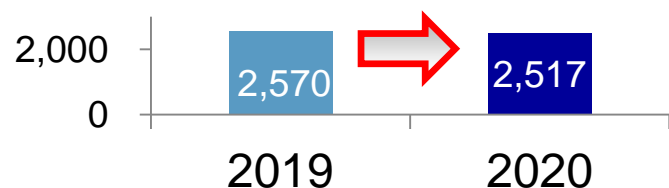
日本は中大型商用車含まない台数

ASEAN 前年比 ▲32.8%



ASEAN: マレーシア, インドネシア, タイ

China 前年比 ▲2.1%



当社売上高VSマーケット生産台数

対前年比較

	当社 売上高	マーケット 生産台数	マ ー ケ ッ ト 比 Outperformance
Japan	▲12.7%	▲16.2%	3.5ポイント
ASEAN	▲23.3%	▲32.8%	9.3ポイント
China	▲8.7%	▲2.1%	▲6.6ポイント

(注) マーケットは速報ベース

出展：MarkLines

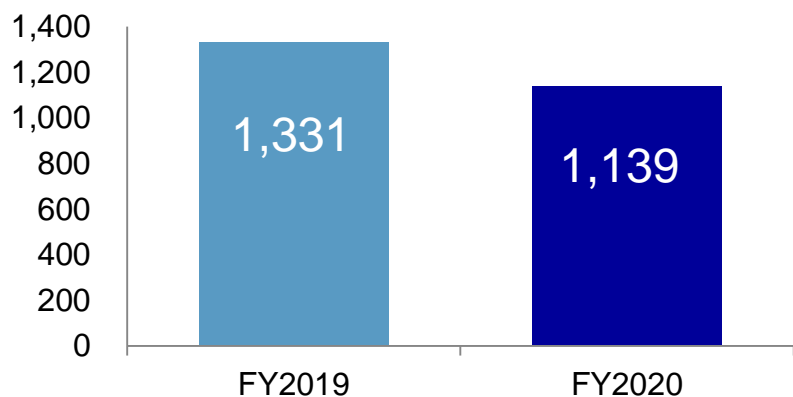
2020年12月期 連結業績概要（対前年比較）

単位：億円/四捨五入

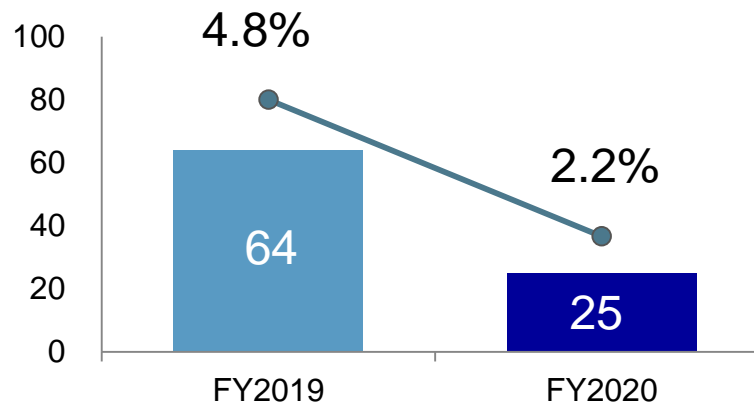
- ◆ コロナ禍により対前年比大幅な減収減益
- ◆ 早期退職実施等により固定費削減。徹底的なコストコントロールにより利益減少額を抑制

	FY2019 (2019年1～12月)	FY2020 (2020年1～12月)	増減額	増減率
売上高	1,331	1,139	① ▲192	▲14.4%
営業利益	64	25	② ▲39	▲61.7%
営業利益率	4.8%	2.2%	②/①：20.3%	▲2.6ポイント
経常利益	74	50	▲24	▲31.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	52	29	▲23	▲45.2%

連結売上高推移



連結営業利益推移



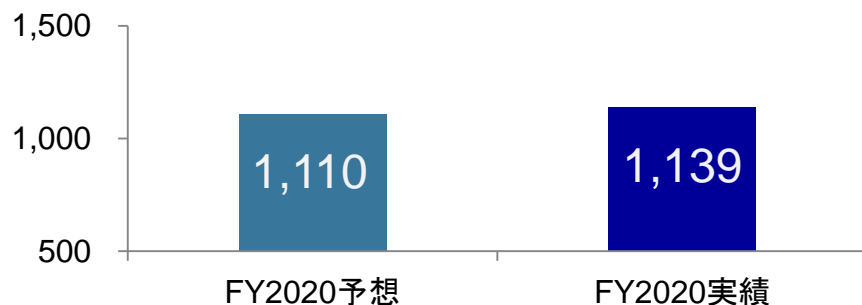
2020年12月期 連結業績（対予想比較）

単位：億円/四捨五入

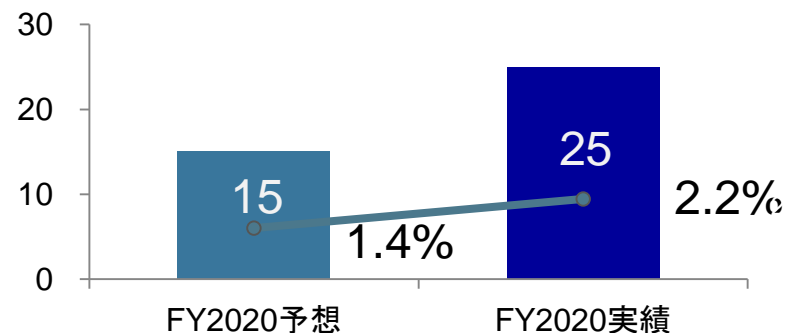
- ◆ 売上高は第4四半期における国内売上の回復を主因に予想比増加
- ◆ 営業利益は売上増加効果、コストコントロールの継続により予想比増加
- ◆ 経常利益は投資有価証券売却益の営業外利益計上により予想比増加

	FY2020 予想* (2020年1～12月) <small>* 2020.11.16.東証発表</small>	FY2020 実績 (2020年1～12月)	増減額	増減率
売上高	1,110	1,139	29	2.6%
営業利益	15	25	10	66.7%
営業利益率	1.4%	2.2%	-	0.8ポイント
経常利益	24	50	26	108.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	11	29	18	163.6%

連結売上高比較



連結営業利益比較



2020年12月期 拠点別業績（対前年比較）

単位：億円/四捨五入

- ◆ 国内は減収減益ながら、減益額はコストコントロールにより抑制
- ◆ 海外は中国、タイ、マレーシアで回復基調。インドネシアの回復は大幅に遅延

()は 前年同期	日本 (市光工業)	海外	その他	内部取引 消去等	合計
売上高	893 (1,023)	196 (246)	100 (107)	▲50 (▲45)	1,139 (1,331)
営業利益	30 (51)	2 (17)	2 (1)	▲9 (▲5)	25 (64)
営業 利益率	3.4% (5.0%)	1.0% (6.9%)	2.0% (1.0%)	-	2.2% (4.8%)

市光工業：単体ベース（伊勢原・藤岡・ミラー・本社）

海外：インドネシア・マレーシア・タイ・中国

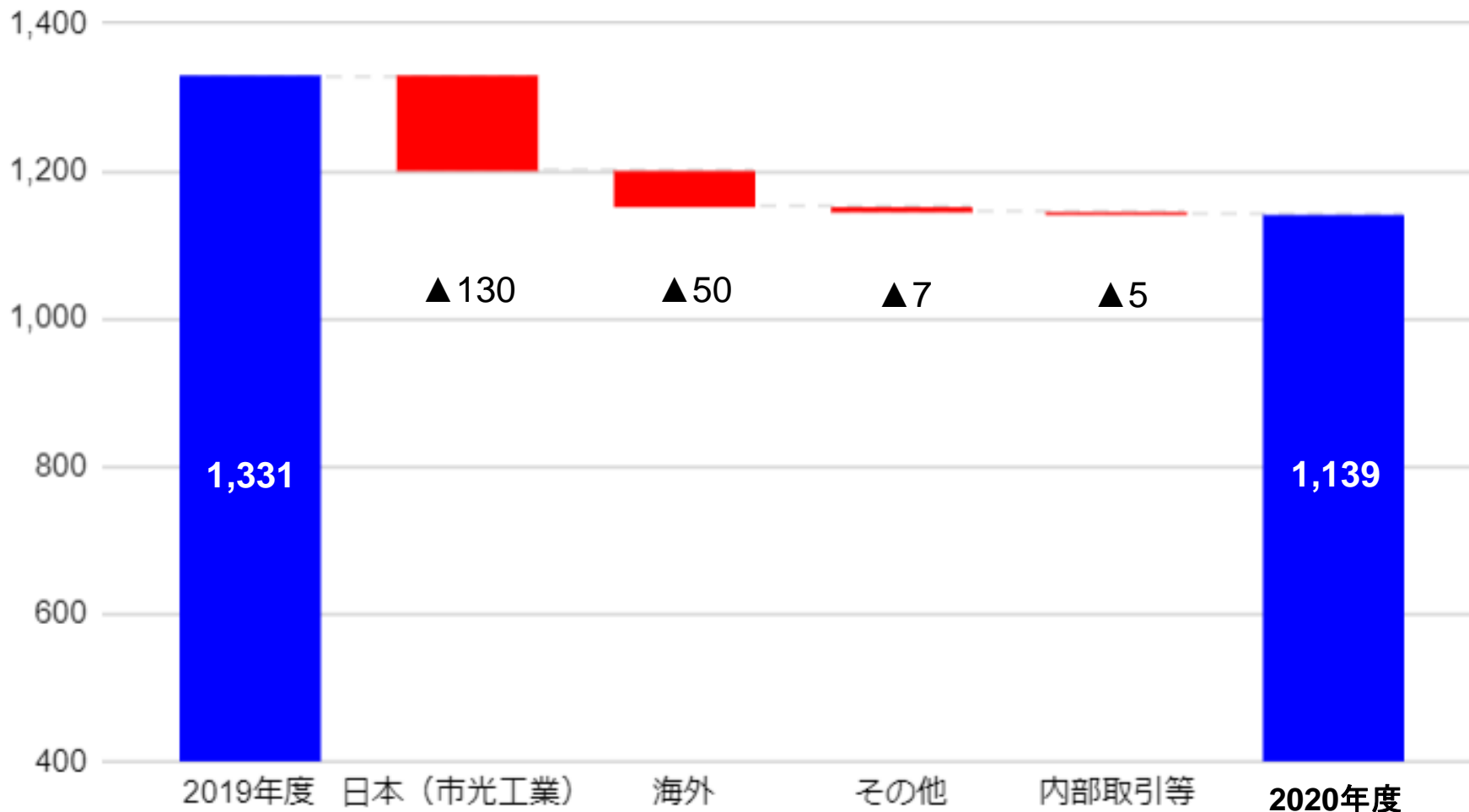
その他：用品事業（PIAA）・バルブ製造販売事業（Life Elex）

2020年12月期 業績のポイント（対前年比較）

【売上高】

単位：億円/四捨五入

- ◆ 連結：コロナ禍による国内減収が主因となり、連結で前年比▲192億円（▲14.6%）の減収
- ◆ 海外：インドネシアが対前年大幅減収（▲53億円）。タイは新規車種立上げにより増収（+8億円）

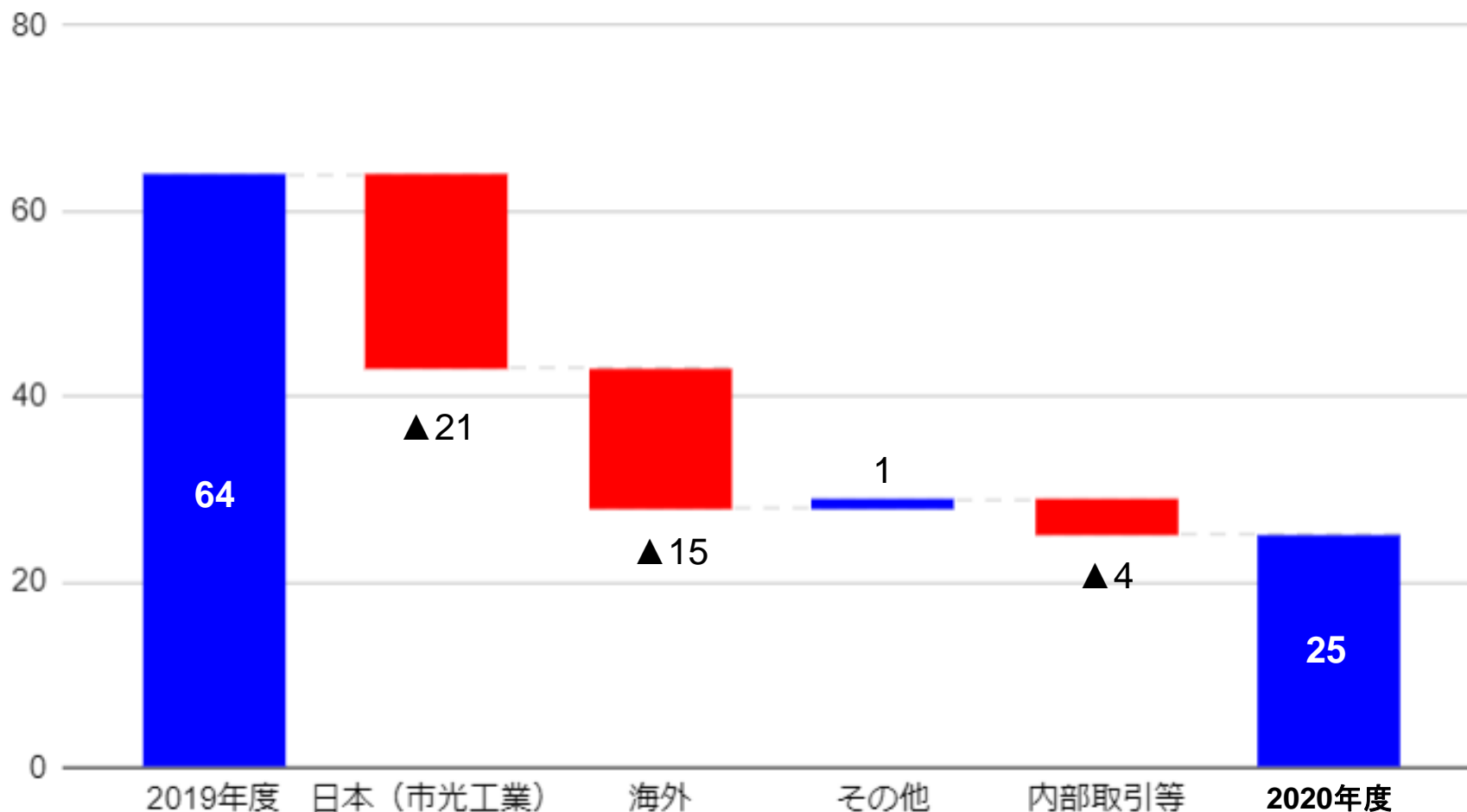


2020年12月期 業績のポイント（対前年比較）

【営業利益】

単位：億円/四捨五入

- ◆ 国内：徹底したコストコントロールにより売上の8割を占める国内の減益額を抑制
- ◆ 海外：利益面でも、中国、タイ、マレーシアは早期回復。インドネシアの回復は大幅に遅延

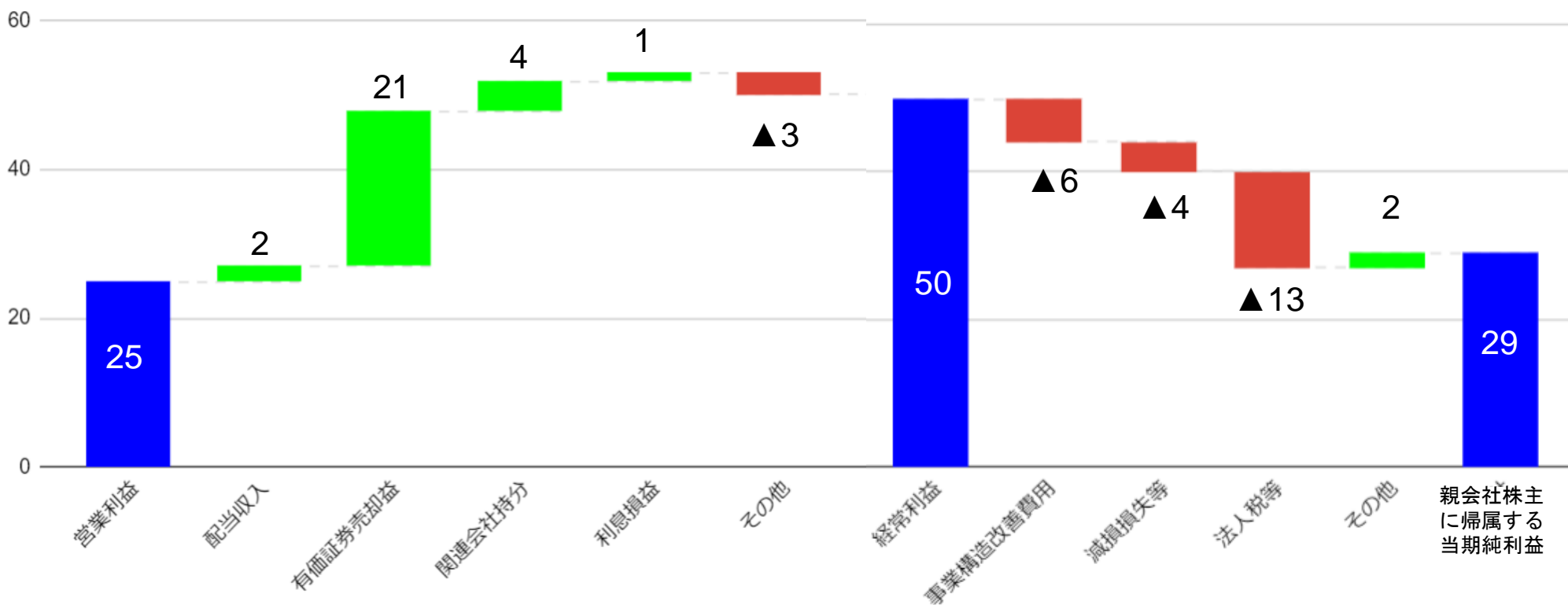


2020年12月期 業績のポイント

【営業利益～経常利益～親会社株主に帰属する当期純利益】

単位：億円/四捨五入

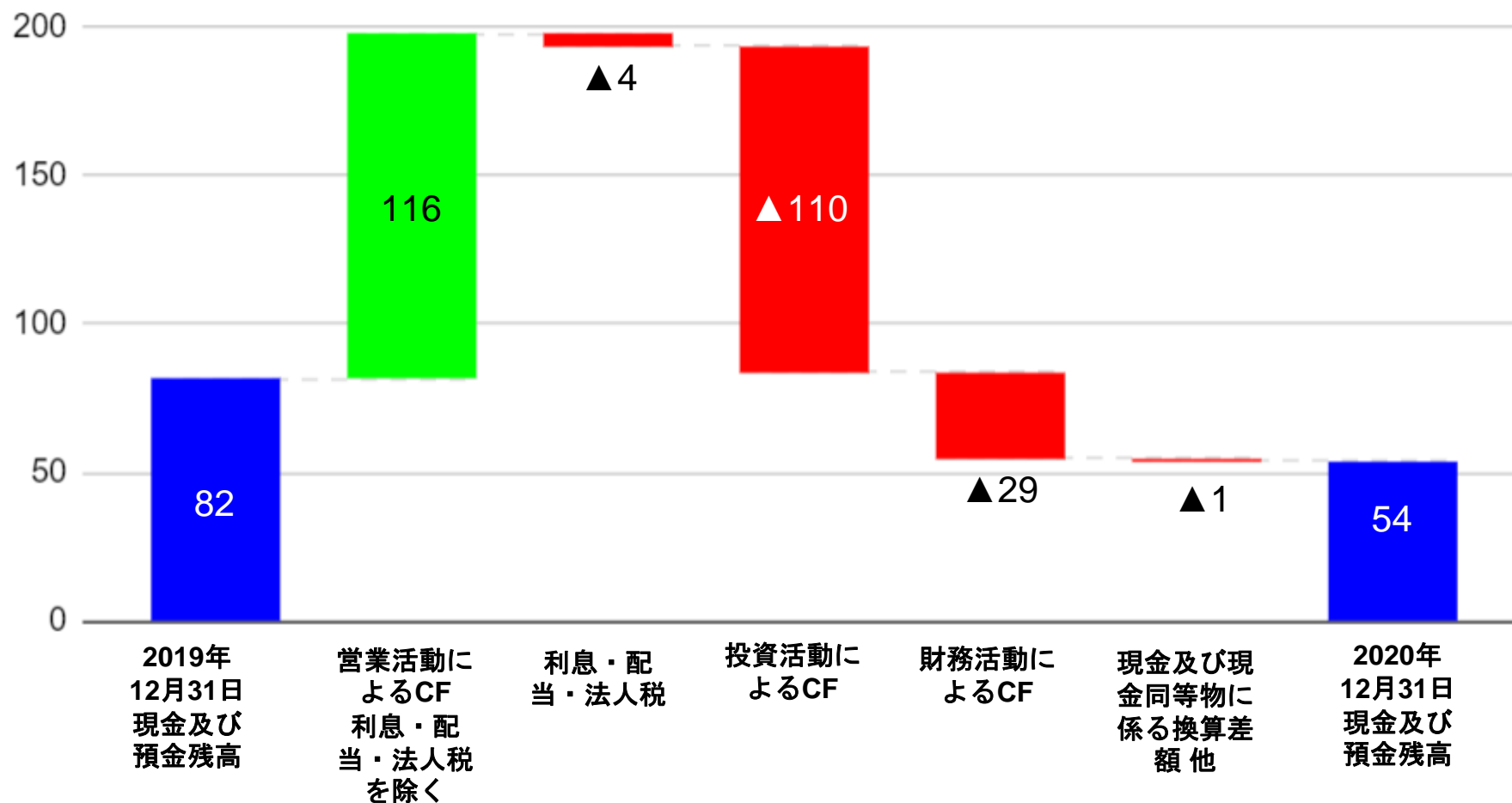
◆ 投資有価証券売却益（21億円）を計上し、事業構造改善費用・減損損失（▲10億円）を補填



連結キャッシュフロー（前年度末からの増減）

単位：億円/四捨五入

- ◆ フリーキャッシュフロー（＝ 営業CF － 投資CF）は若干の黒字
 - 投資CFに含まれる有形固定資産取得は▲118億円。営業CF116億円により概ね賄った形



連結貸借対照表（前年度期末比）

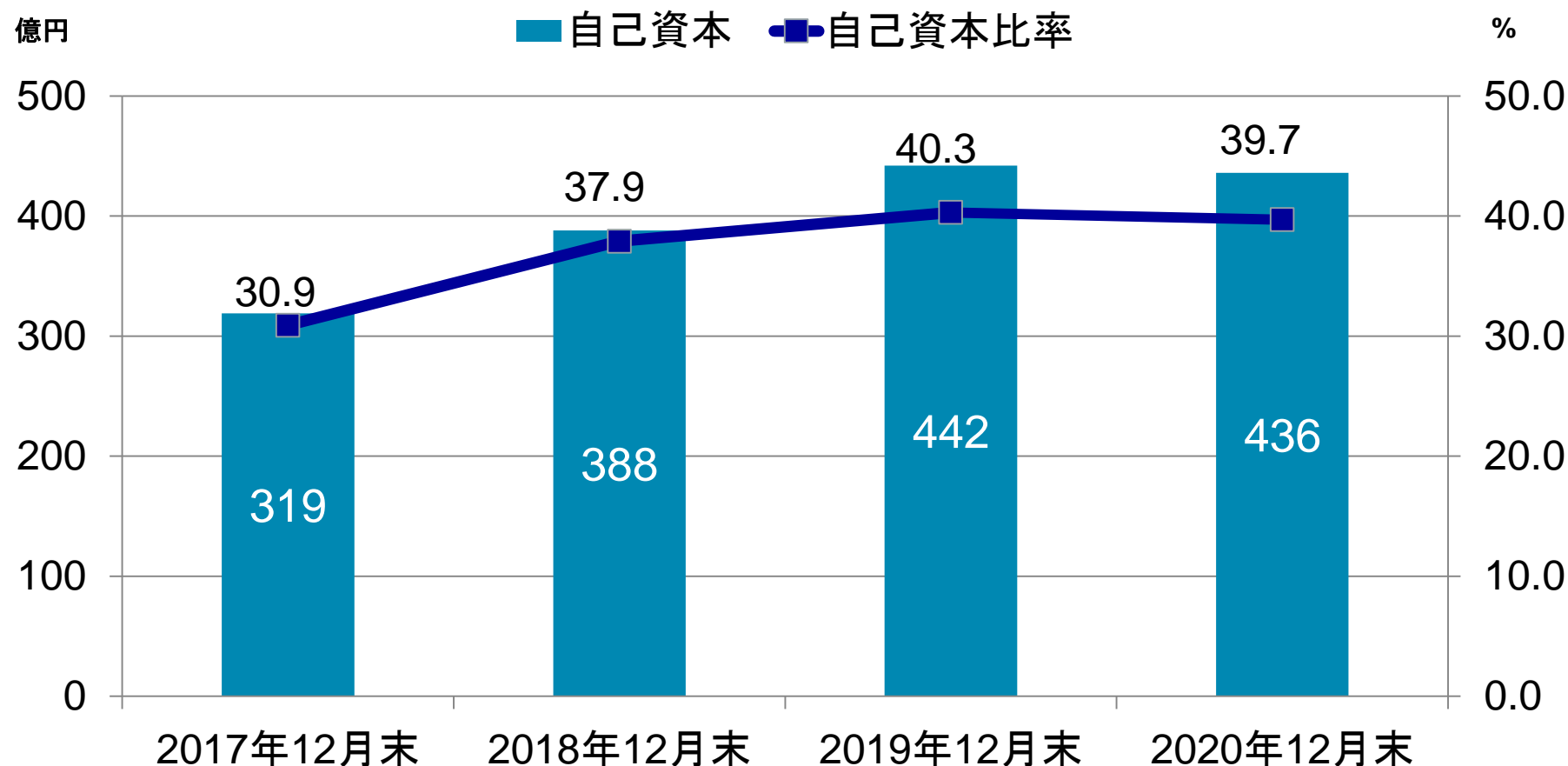
単位：億円/四捨五入

- ◆ 流動性（＝現預金＋短期貸付金）は前期末並み（前期末141億円/当期末145億円）
 - なお、短期貸付金（Valeo向け超短期ローン）は銀行預金との金利比較のうえ実行

	2019/12	2020/12	増減
現金及び預金	82	54	▲28
棚卸資産	93	82	▲11
短期貸付金	59	91	32
有形固定資産・無形固定資産	440	471	31
その他	424	398	▲26
資産の部	1,098	1,096	▲2
有利子負債	123	99	▲24
その他	521	552	31
負債の部	644	651	7
株主資本	457	481	24
その他包括利益累計額	▲15	▲46	▲31
非支配株主持分	12	10	▲2
純資産の部	454	445	▲9
自己資本比率	40.3%	39.7%	
D/E比率	27.9%	22.8%	

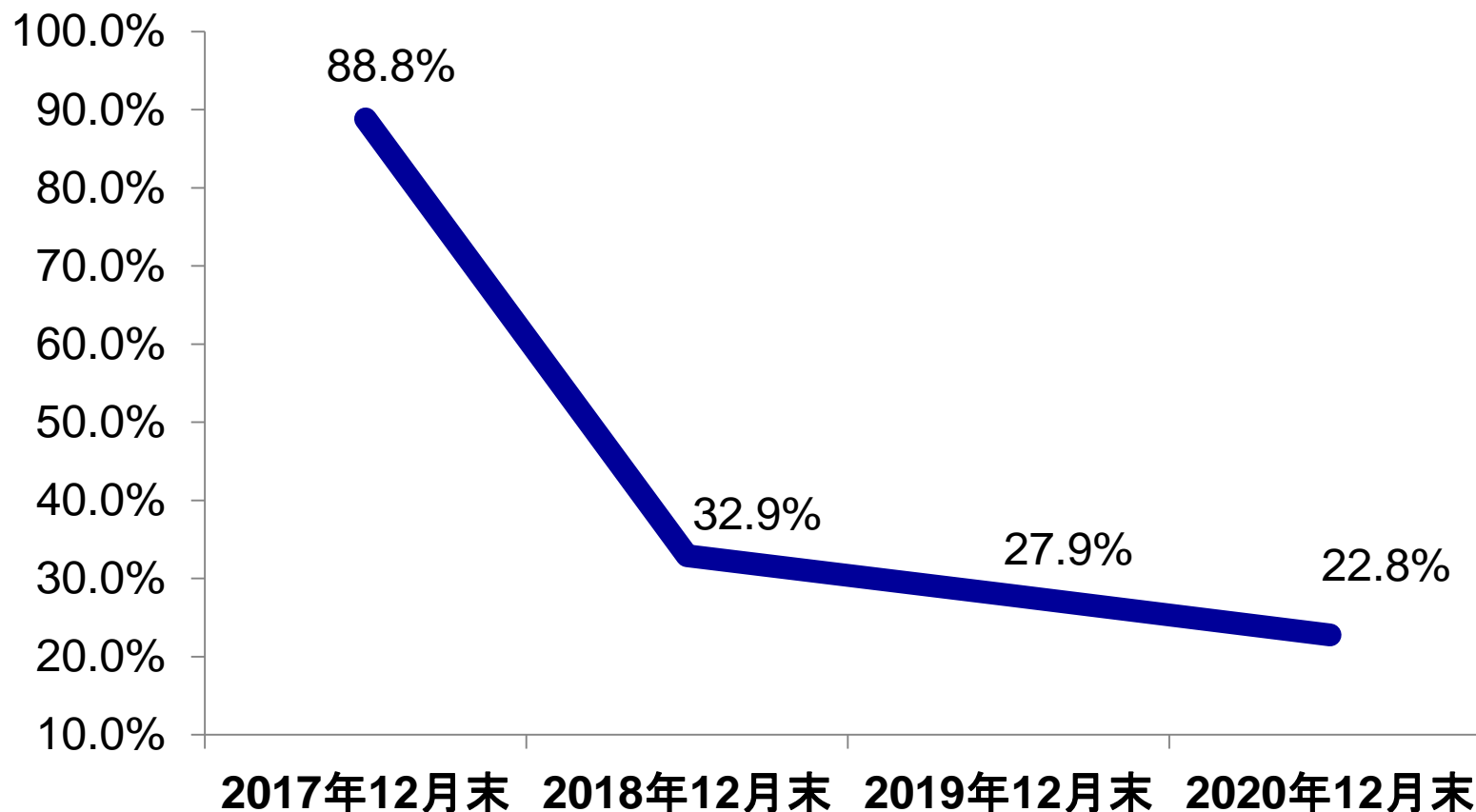
自己資本額と比率

自己資本比率は若干低下も、400億円・40%程度のレベルを確保



D/E レシオ

D/E レシオは2年前の大幅改善以降は、着実に改善



2021年12月期業績見通し (2021年1月～12月)

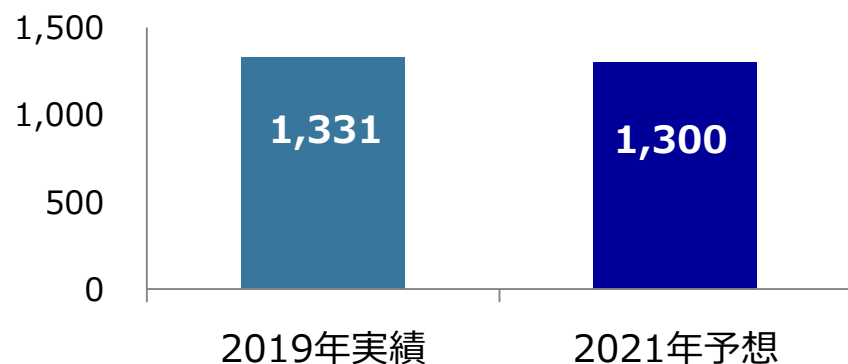
2021年12月期 連結業績見通し

単位：億円/四捨五入

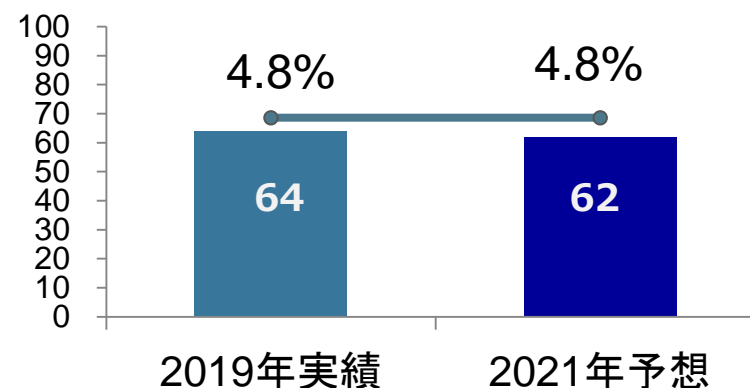
- ◆ 売上高：コロナ禍前の2019年実績から若干劣後。インドネシア回復の不確実性等を勘案
- ◆ 営業利益：固定費削減効果等により、概ね2019年実績水準を達成見込み

	19年12月期 (19年1～12月実績)	20年12月期 (20年1～12月実績)	21年12月期 (21年1～12月予想)	19年対比 増減額	20年対比 増減額
売上高	1,331	1,139	1,300	▲31	161
営業利益	64	25	62	▲2	37
営業利益率	4.8%	2.2%	4.8%	-	-
経常利益	74	50	66	▲8	16
親会社株主に帰属する 当期純利益	52	29	42	▲10	13

連結売上高推移



連結営業利益推移



2021年12月期 拠点別業績見通し（19年度対比）

単位：億円/四捨五入

- ◆ 国内：研究開発費、減価償却費の増加等により、2019年との比較では若干劣後
- ◆ 海外：インドネシアの回復の遅れはあるも、営業利益率は大幅に向上

()は 2019年	日本 (市光工業)	海外	その他	内部取引 消去等	合計
売上高	986 (1,023)	245 (246)	101 (107)	▲32 (▲45)	1,300 (1,331)
営業利益	41 (51)	22 (17)	4 (1)	▲5 (▲5)	62 (64)
営業 利益率	4.2% (5.0%)	9.0% (6.9%)	4.0% (1.0%)	-	4.8% (4.8%)

市光工業：単体ベース（伊勢原・藤岡・ミラー・本社）

海外：インドネシア・マレーシア・タイ・中国

その他：用品事業(PIAA)・バルブ製造販売事業(Life Elex)

2021年12月期 拠点別業績見通し（20年度対比）

単位：億円/四捨五入

- ◆ 国内：増収増益。固定費は減少。但し前年度一時的経費抑制の終了から利益回復は緩やか
- ◆ 海外：インドネシアで回復遅れも、タイなどで前期からの大幅改善を見込む

()は <u>2020年</u>	日本 (市光工業)	海外	その他	内部取引 消去等	合計
売上高	986 (893)	245 (196)	101 (100)	▲32 (▲50)	1,300 (1,139)
営業利益	41 (30)	22 (2)	4 (2)	▲5 (▲9)	62 (25)
営業 利益率	4.2% (3.4%)	9.0% (1.0%)	4.0% (2.0%)	-	4.8% (2.2%)

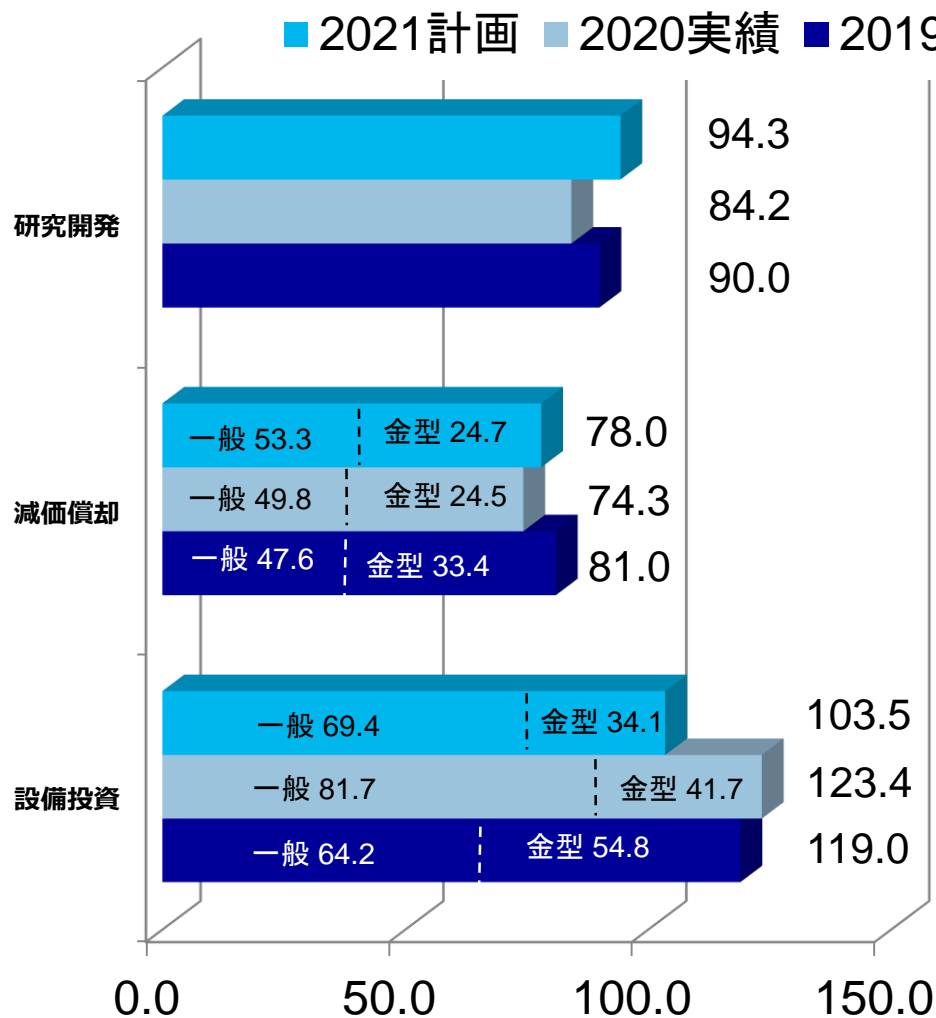
市光工業：単体ベース（伊勢原・藤岡・ミラー・本社）

海外：インドネシア・マレーシア・タイ・中国

その他：用品事業(PIAA)・バルブ製造販売事業(Life Elex)

2021年12月期 設備投資・減価償却費・研究開発費 計画

単位：億円/四捨五入



- ✓ 2020年はコロナ禍対応で一時的に減少
- ✓ 2021年はオペレーションの平常化、PJ数増加、製品高付加価値化により再び増加
 - ヴァレオ・市光のLCC開発拠点の活用を加速化し、増加額抑制を図る

- ✓ 厚木新工場関連投資の継続により一般投資分減価償却額は増加
- ✓ 金型関連減価償却は金型収入の増減と連動。収益への影響は限定的

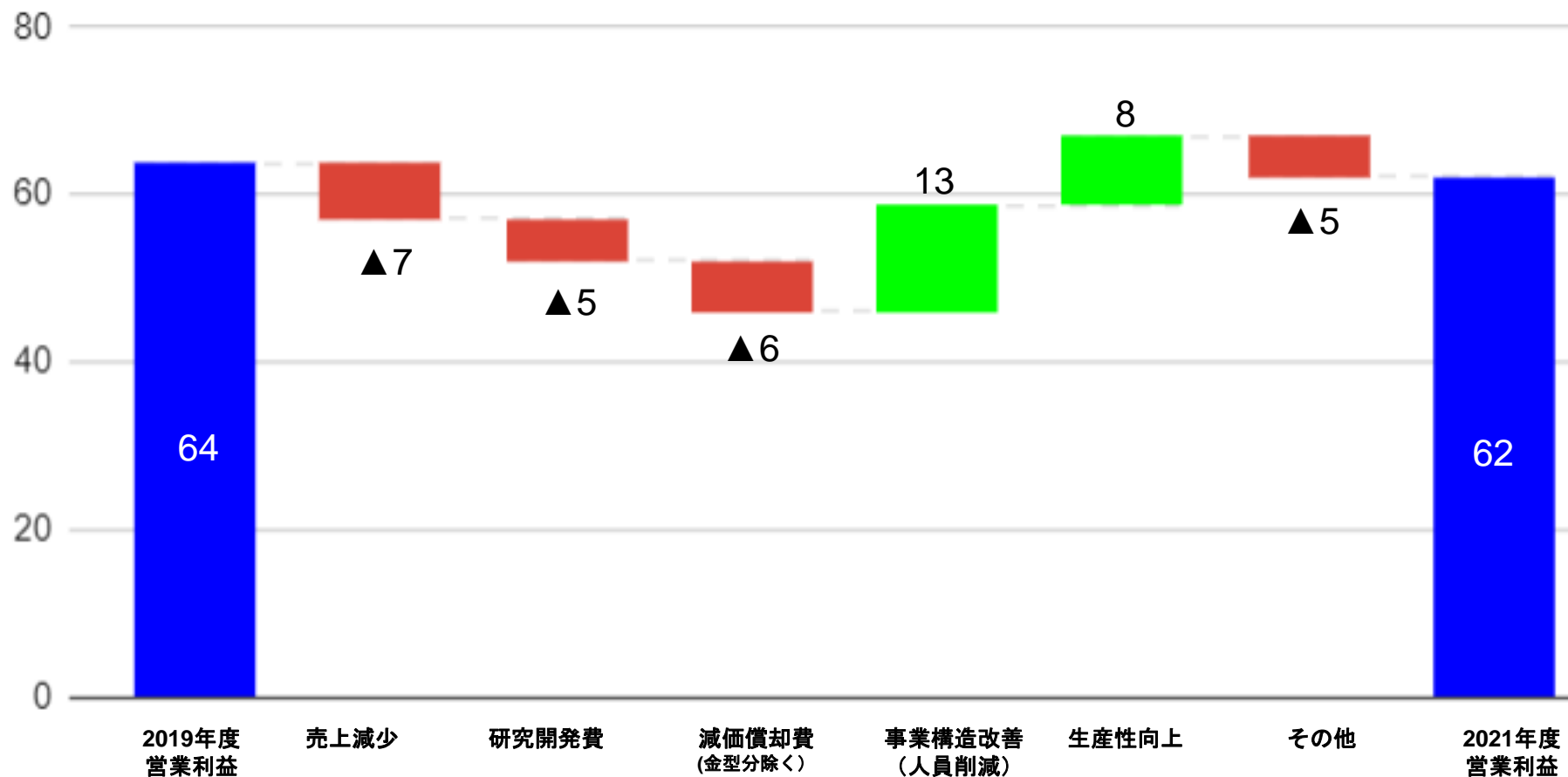
- ✓ 厚木新工場関連投資継続
 - 2021年末 OEMライン移設完了（伊勢原工場→厚木工場）
 - 2022年~2023年 ヘッドランプ数量増加により新ライン増設

※研究開発費には、試作費、PJ開発コストを含む
 ※設備投資（2020, 2021）にはリースによる投資も含む

2021年12月期 営業利益のポイント（2019年度対比）

単位：億円/四捨五入

◆ 2019年比、売上減少による減益、研究開発費、減価償却費の増加を、事業構造改善（早期退職による人件費抑制）及び生産性向上でカバー



2021年12月期 業績見通し・中期計画達成のポイント

受注の獲得

- ✓ 新規受注は順調、中期計画で想定通りの進捗
- ✓ 他方、コロナ禍後の想定数量の減少、競争激化による単価低下への対応が喫緊の課題

コスト競争力の強化

- ✓ 固定費構造の徹底的見直し
 - 早期希望退職の実施（年間13億円の人件費削減効果）
 - 研究開発費の増加抑制（ヴァレオ・市光のLCC開発拠点の活用加速化）
 - ✓ 生産効率の向上
 - ヘッドランプ：厚木工場移行完了による能力増強・生産性向上
 - リアコンビネーションランプ：藤岡製造所の更新投資は完了
 - 中国ミラー：新自動化塗装ラインの稼働開始等により生産性向上
- 年間8~10億円の生産性向上効果を目指す

高付加価値化

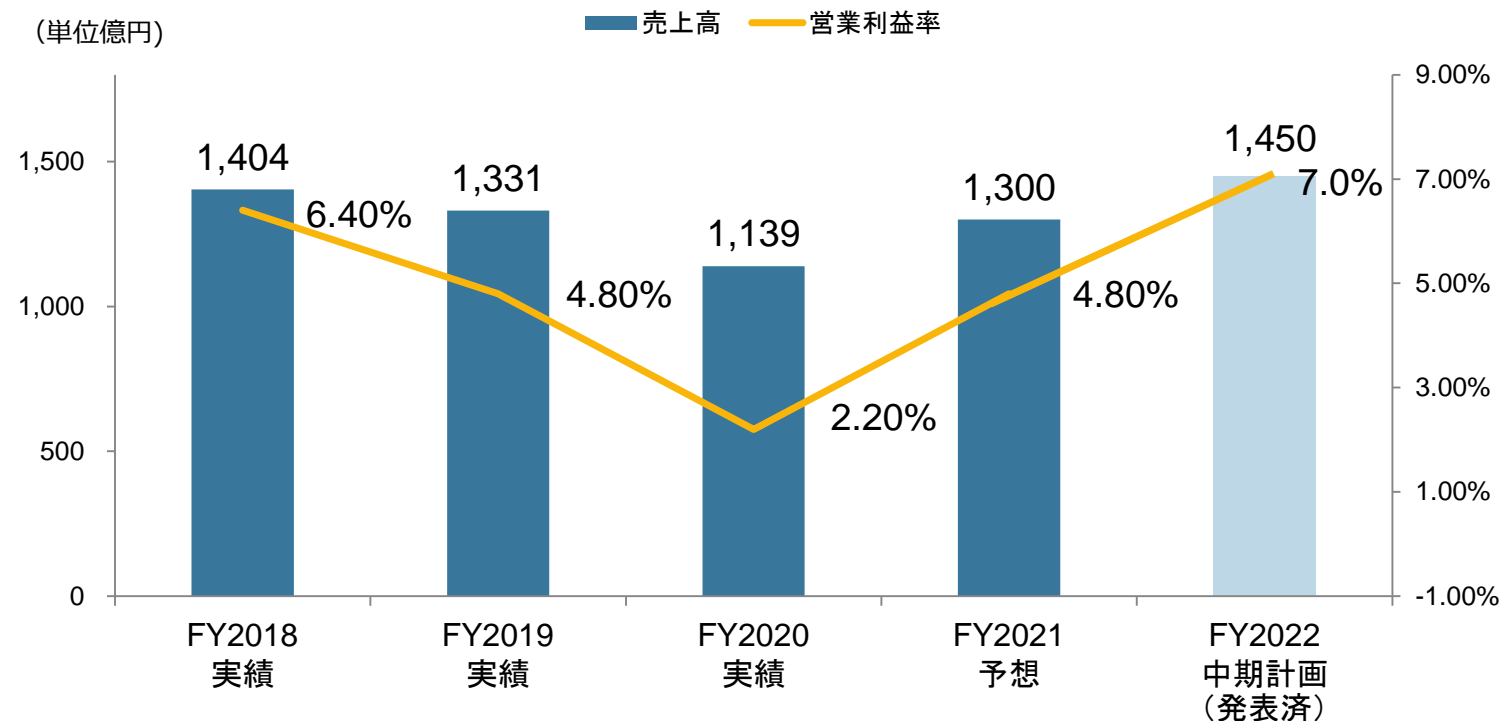
- ✓ ヴァレオとの共同開発・連携を加速。顧客へのタイムリーかつ的確な製品提案を実施
 - ADB (Matrix Beam ~ Monolithics)
 - HD Lightings etc...
- ✓ 高付加価値化により単価下落圧力の打ち消しを図る

当社中期見通し（変更なし）

◆ 2020年9月に改訂した、中期経営計画2022年目標値には変更なし

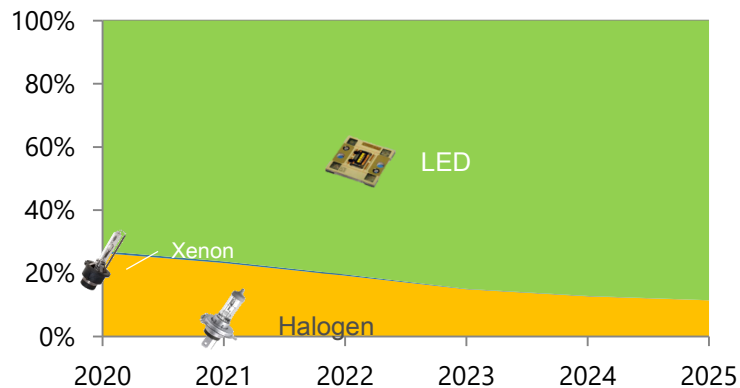
- 売上高： 1,450億円
- 営業利益率： 7%

◆ 新規受注は順調に進捗。マーケット要因による数量減少、競争激化による単価下落圧力を、固定費削減と生産性向上によるコスト構造の改善、高付加価値化により吸収

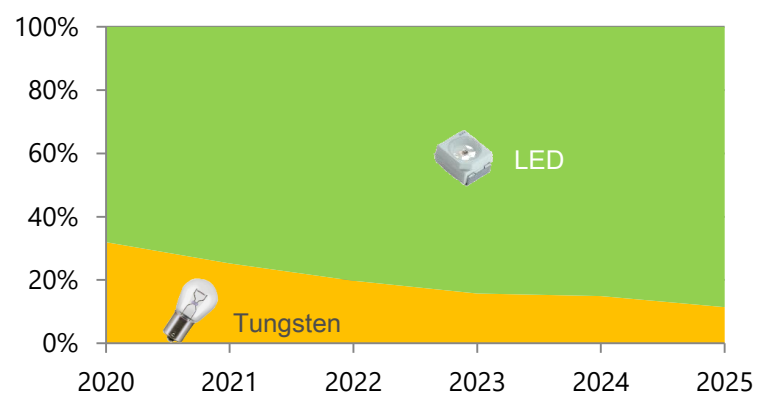
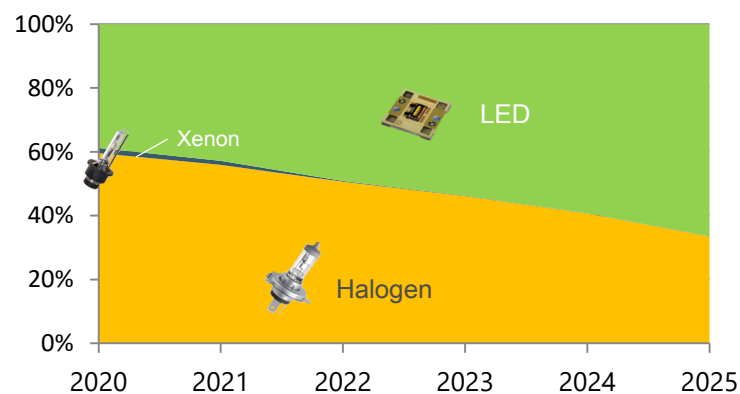
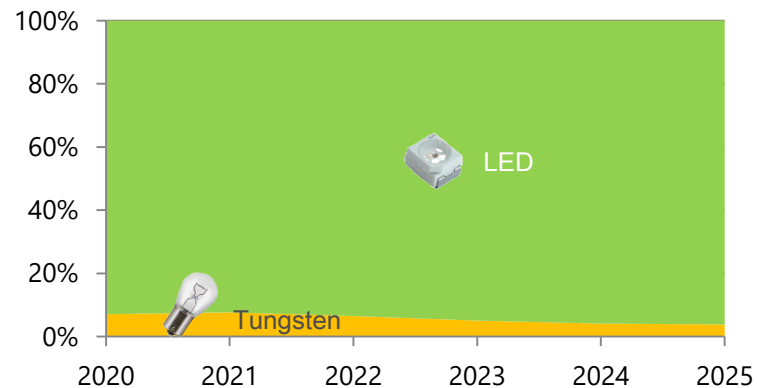


ヘッドランプ、リアランプの光源推移予測（弊社予測）

ヘッドランプ



リアランプ



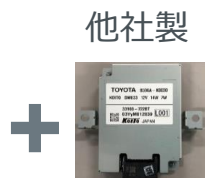
ヘッドランプのシステム提案の実例

電子部品も含めたシステム開発を推進

NISSAN様 NOTEの例

2016モデル

ICHIKOH
a Valeo company



LEDロービームのドライバーはOEM支給
(他社開発)



2020モデル

ICHIKOH
a Valeo company



Valeo



LED ADBユニットドライバーの内製化
(VALEO開発)

出典：写真は各社ホームページによる

予測に関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、市光工業株式会社（以下、当社）が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

ご利用に際しては、ご自身の判断で御願ひ致します。資料に記載されている見通しなどに基づいて投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失についても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権は当社に帰属します。いかなる理由によっても当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

ICHIKOH
a Valeo company